

國東の
文化財

ケバス祭

国選択無形民俗文化財



ケベス祭とは

ケベス祭は国東市国見町櫛来（くしく）の櫛来社（岩倉八幡社）の秋の例大祭の宵宮祭り（よいみやまつり）として、毎年新暦10月14日の夜に行われる火祭りです。昔は旧暦9月14日に行われていたので地元では「九月祭」とも呼ばれていました。

祭りでは、ケベスは白装束に木彫りの仮面という姿で境内に降り立ちます。境内では積み上げられたシダの山に火がつけられ、ケベスは太鼓・笛・鉦（かね）などのネンガク（練楽）の列に入り、肩に担いだ棒（差又・さすまた）を扇子で叩きながら境内を廻ります。

一廻りしたところで、ケベスは火に向かって突進します。火を守る当場の男たちは、差又でケベスをネンガクの列に押し戻します。ケベスは再び突進し、また押し戻されます。3度目の突進で火に突入し、燃えるシダの束を差又ではねます。しかしながら当場に押し戻されます。このやりとりが3回繰り返され、通算9回目の突進で火に飛び込むと、今度は当場たちが差又にシダの束を突き刺し、その火の粉を参拝者たちに振りまきます。火の粉を浴びると無病息災になるといわれます。

境内に悲鳴と歓声が響くなか、ケベスは境内の3か所で差又の先につけたワラヅト（わらづつみ）を地面に3回叩きつけます。叩きつける音が大きいほど五穀豊穣になるとされています。すべての火が消えたころ、神職の叩く締めの太鼓の音を合図に火祭りは終わります。

このケベス祭は、平成12年12月25日に国の選択無形民俗文化財に選択されています。



ケベス祭の奉仕者

櫛来社の氏子は櫛来地区を構成する3つの行政区で約220戸あります。その氏子が現在は8つの当場組（とうばぐみ）に分かれ、一年交代でその年の櫛来社の神事に奉仕しています。ケベス祭もその年の当場地区の人々と、神職及び宮付きと呼ばれる代々神事に奉仕する人々によって執り行われます。

ケベス祭では当場組の中からケベス役をはじめオカヨとトウジ及び各々のスケ（介）の各役（左表参照）を「釣りくじ」によって選ぶしきたりがあります。「釣

名称	役割
当場（トウバ）	祭りを担う当番地区。また、その地区で祭りに奉仕する人々。
当場元（トウバモト）	神穂屋を建て、神導様を迎える。
大世話人（おおせわにん）	当場組の統括（当場元を兼ねることが多い）
オカヨ	神導様に仕え供物を取り仕切る。
ケベス	神穂屋で甘酒を仕込む
トウジ（杜氏）	トウジの補助
トウジのスケ	トウジの補助
ケベス役	



神穂屋（カムボヤ）



神導様（ジンドウサマ）

「りくじ」とは、候補者の名前が書かれた紙を、神職が柳に結びつけた麻ひもでなぞり、その先端にくつった紙を釣り上げるというものです。

神導様は神幸にあたり道案内をする神とされています。普段は櫛来社の御供所（ごくしょ）神への供え物を準備する場所（の神棚に祀られていますが、10月9日から祭り当日までの6日間、当場元の家の軒下に作られた神穂屋（カムボヤ）に祀られます。

カヤを組み合わせた一間に四方の小屋で当場元の家の軒下に作られます。

中に神棚を作り、棚の上に神導様を祀り、その下に甘酒の甕や供え物の櫃などを据えます。

祭りまでの準備

ケベス祭は準備の時から、神の見守る中で古くか
らの決まりごとを厳格に守つてすすめられます。ま
ず神社の清掃が行われ、当場組総出で山から神穂屋
に使われるカヤや、境内で燃やすシダを刈り集めた
り、注連縄（しめなわ）の用意をします。そして10
月7日までにまず当番元と大世話人を決め、続いて
「釣りくじ」でオカヨ・トウジや各々のスケ（補佐）
が決められます。

10月8日 《非公開》

当場元の家の軒下に神穂屋を作ります。

10月9日 「宮下り（みやくだり）」 《非公開》

神導様が櫛来社から当場元の神穂屋へ行幸する日
です。朝、当場組と神職・宮付きの人々がオカヨを
先頭に行列を組み、神導様を神穂屋に祀ります。オ
カヨは14日まで毎朝海水に浸かつて心身を清め、神
導様に供え物をします。またトウジは甕に甘酒を仕
込み、神穂屋に供え、発酵を促すため毎朝かき混ぜ
ます。

そしてこの日から祭りが終わるまで、当場組全員
が精進潔斎（しようじんけつさい）・酒や肉食などを
つつしみ、心身を清めます。また
当場以外の人とは一切火を交えてはならないため、
他の地区で作られた飲食物を口にしたり他の地区的
人に飲食物を作つて出すことができません。学校や
職場には家で作った弁当・お茶を持参することにな
ります。



御縄餅



10月13日 《非公開》
当場の男性全員で海でシオカキ（潮搔き）をして
身を清め、当場元で供え物の鏡餅や御縄餅（おなわ
もち・神がお土産を結んで帰るといわれる縄を結ん
だ形に作った餅）や御沓型餅（おくつがたもち・神
が帰る際に履くといわれる沓底を型どった餅）をつ
きます。当場は全員白装束姿で、餅にケガレがつか
ないよう口に「カミシバ（神の葉）」をくわえ、一言
も声を発してはいけません。神職と大世話人だけが
言葉で指示を出すことができます。

餅つきが終わると、ケベスの「釣りくじ」が行われ、
ケベス役が決定します。



御沓型餅



午後6時頃

「潮搔き（シオカキ）」

当場の男性が海水
につかり身を清めま
す。



10月14日 《公開》
午後2時頃 「宮上せ（みやのぼせ）」

神導様が櫛来社へ還幸するための行列が当場元を
出発します。オカヨを先頭に小旗（コバタ）・太鼓・笛・
鉦・神導様と続き、お供えの甘酒や餅も櫛来社へ運
ばれます。

ケベス祭

10月14日祭り公開日 ケベス祭（櫛来社境内での神事）の流れ

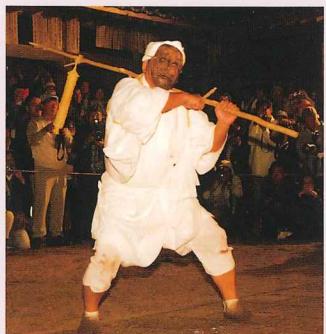
午後7時頃
櫛来社拝殿で宵宮祭りの神事
が始まる。

始まり



ケベスに装束を着せる神職。ス（神）がのりうつる。

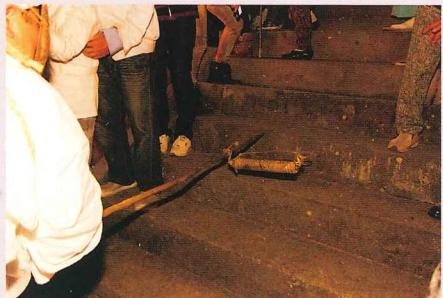
クライマックス



当場が火の粉を振りまいて参拝者たちに浴びせる。

ネンガク（練楽）の列に入り、火に突進するケベスを当場に突入する隙をうかがうケベス。が順番にさえぎり、押し戻す。

終わり



神社の西門、御供所前、拝殿前で来年の五穀の豊凶を占う。

参考文献
段土達雄 2011 「北部九州の宮座 ジガン・ジンガを中心として」
『共同研究』宮座と社会：その歴史と構造』八木透・上野和男 編 国立歴史民俗博物館

案内図



お問い合わせ

国東市伝統文化活性化実行委員会
事務局：国東市教育委員会 文化財課

〒873-0504 大分県国東市国東町安国寺 1639-2
国東市歴史体験学習館内
TEL : 0978-72-2677
FAX : 0978-72-2505

祭りの参拝についての注意

祭りには、学術的な調査や記録以外、一般には公開されていない部分もあります。個人宅や屋内等で行われる非公開の行事には、関係者のみで行われる神聖な神事や住民のプライバシーに関する事柄も含まれています。祭りの伝統やしきたりを尊重し、迷惑をかけることのないようにしましょう。また、神社境内での公開行事では、マナーを守って写真撮影等を行い、祭りの関係者や参拝者に迷惑をかけることのないようにしましょう。